

南和公立病院について

議員 奈良県と南和地域の一市三町八村（五條市・大淀町・吉野町・下市町・黒滝村・天川村・野迫川村・十津川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村）が、医療機能が低下している三つの救急病院（五條病院・大淀病院・吉野病院）を、一つの救急病院と二つの地域医療センターに役割分担を行い、医療提供体制を再生し、平成二十六年度中に供用開始を目指し取り組んでいるが、三病院を再構築することによって、現在、救急病院である県立五條病院が地域医療センターとなった場合、どのように変わるのか。

健康福祉部長 県立五條病院の病床規模については、現在の百九十九床から九十床程度になる。

医療機能については、
一、救急病院を退院することとなったものの引き続き入院を必要とする患者さんが、安心して療養のために入院できる長期入院機能。
二、在宅への連携を見据えた高齢者医療。
三、内科や整形外科など身近な外来機能。

など、地域住民のニーズの高い医療サービスの充実が図られる予定である。

議員 今から建てる新しい病院であるにもかかわらず、分べんは当面休止、赤ちゃんを産むことができないというのは、大変残念なことである。

南和地域の病院で出産できなければ、次世代を担う若者がなかなか住んでくれない。そうなれば人口も増えず、南和地域はますます高齢化率の高い地域になってしまふ。

南和地域の活性化・発展を考えても、新病院での分べん・出産は不可欠な条件である。

今後、出産することができるよう、五條市長として、どのように取り組まれるのか、お尋ねする。

市長 分べんに関して、知事は医師が見つかれば、やっていきたいという方向性を示してくれた。新しい病院に分べん室も確保しているのが、医師が見つかればできると思うが、なかなか医師が見つかからないというのが現状である。医師が見つかれば、分べんできるように努力したい。

議員 早く医師を見つけて、新しい病院で分べんが可能になるように働きかけていただきたい。



学校教育の現状について

議員 身体的、精神的にと様々な障害を抱えながら、勉強や学校行事に一生懸命取り組んでいる子供たちがいるが、スクールサポーターや補助教員は、手の掛かる子供に掛かりきりであり、必要とする全ての子供たちに行き届いたサポートができていない状況である。

子供たちが授業や学校行事を有意義なものとするためには、スクールサポーターや補助教員の人材がまだまだ必要と思うが、教育委員会としては、どのように考えているのか。

教育部長 悩みなどを抱えている子供たちには県からスクールカウンセラーなどの支援を得て対応している。また、特別支援を要する子供たちには、二三年度は国の補助金を活用し、教員免許等の資格を有する学校特別支援員を雇用するなど、子供たちの教育の充実に努めている。財政状況が厳しい中、来年度から国の補助金も減少し、学校特別支援員を雇用できなくなる可能性があるが、教育現場の状況や市の財政状況を鑑みながら、特別支援教育の充実に努めてまいりたいと考えている。

五條市の今後について

議員 五條市内にあった公的機関や施設が、ハローワークは下市町に、ごみ処理施設は御所市に等々、市外に移り、市の利便性や機能が低下し、魅力あるまちづくりや南部地域の振興に逆行していると思えない。どのようなビジョンで南部振興や魅力あるまちづくりを考えているのか。

市長 公共施設の再編は、財政健全化を目指した組織の効率化とスリム化を図ったためと考えられるが、本市としては、持続的な発展を進めていくため、優れた自然環境や歴史、文化、まちの魅力を再発見し、活用していくことが重要と考えている。

また、京奈和自動車道御所道路が開通する予定の平成二十八年度を好機と捉え、企業誘致を積極的に進め、雇用拡大と若者の定住化による地域経済の活性化を図ってまいりたい。

